

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	21922100184		
法人名	(株)三城ケアサービス		
事業所名	グループホーム ダンデライオン(西ユニット)		
所在地	大垣市赤花町1丁目68番地1		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2192100184-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2192100184-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年1月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様一人一人の心に寄り添うケアに日々心がけています。</p>
--------------------------------------

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、設立して3年目である。幹線道路から道1本はずれ、静かな住宅地にあり、明るいベランダと大きな窓が特徴的である。運営者は、接骨医であり、ケアマネジャーを兼ねている。専門技能を活かし、質の高い、自立に向けたケアを提供している。さらには、豊かな人材を育て、ゆとりのある介護の実現に向けて、調理の専属員・夜勤専従者の体制を取り、職員と利用者が、ゆとりを持って共に生活できるように、実践をしている。地域住民との交流を深め、地域福祉の課題を共有しながら、地域に密着した事業運営を行っている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(西ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの良く見える位置に掲示し、スタッフが理念を共有しケアに反映できる様に心がけている。	理念は「地域の中で思い合い、認め合い、支え合い」を掲げている。職員会議で理念の意義を確認、共有をしている。一人ひとりの思いや人格を認め合い、その人らしい暮らしができるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会で行われるイキイキサロンに参加させて頂いたり、施設の夏祭りに地域の方が盆踊りをしに来て頂いたり、楽しい時間を過ごす事ができた。今後も継続する努力をしたい。	自治会長が定期的に訪れ、地域情報を提供している。中学生の福祉体験を受け入れたり、事業所の夏まつりに、近隣の住民を招いている。町内の「いきいきサロン」では、地域住民と、親しく交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議で自治会長様やご家族に向けて、認知症の方々の独自の行動や症状などをテーマにお話する機会を設けている。また、いきいきサロンにて認知症の実態をお話しさせていただくなど情報発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の近況や活動内容についての報告を行い、ご家族様との意見交流の場として参加して頂いている。また、意見がケアに反映できるよう、できるだけ質疑応答や意見交流の時間に重点をおいている。	運営推進会議は、隔月に開催をし、既定のメンバーが参加をしている。事業の実情を報告して意見を交わし、感染症対策や地域交流の進め方などを話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で地域包括センターの方に参加して戴き、施設の現状報告をお伝えしながら協力関係が築けるように努めている。また、様々な面で、高齢介護課の方に相談をさせていただいている。	行政の担当者に、困難事例の相談や情報交換等を、日常的に行っている。行政主催の研修会や事業者連絡会に参加をしている。地域包括支援センターとも協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の対象になりうる行為を理解し、ケアに努めている。また、ユニットの扉や玄関を開放し、ご利用者様が自由に出入りできる環境でケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロのケア方針がある。マニュアルを整え、全職員で周知をしている。利用者の心理・精神面でも、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、身体拘束以外に、目に見えない言葉の虐待についても職員全員で考え、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここ1年は職員が権利擁護に関して学ぶ機会が確保されていないため、今後は勉強会のテーマとして取り上げたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問合せ、見学には十分時間をかけ説明、契約時にはじっくり時間をかけ施設の様子、サービス内容、利用料金について詳しく説明し、理解、納得して頂けるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様ご家族様には二ヶ月に一度の運営推進会議に参加頂きつぎおとうや意見交流の時間を設け、それらをケアや運営に反映させる努力をしている。	家族が、運営推進会議に出席した際や訪問時に意見交換をしている。家族から、スロープの設置要望が出て、実現をしている。家族へは、ホーム便り(タンポポ通信)で連絡・報告し、信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者が職員に声かけして意見を聞き、職員みんなで作り上げる施設になるように努力している。	職員の意見や提案は、管理者を中心に、日常的に話し合っている。清潔保持や汚れ物の処理、機能の高い洗濯機の採用などの提案があり、運営に反映させている。	更に質の高い運営の実現に向けて、職員からの意見や提案が表出できる仕組みづくりに期待をしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は適度に施設に出向き、雑談ベースではあるが個々の職員の勤務状況や思いを聞き取り、いつでも相談でき、対応できる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加できる機会を確保し、職員の意見をきいて希望に合った研修に参加できるように心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度行われるグルマネ・タキマネ、しゃべり場に参加する事で意見交流や情報交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様には一日でも早く施設の生活に慣れて頂き安心安全な生活が送れるよう、職員が寄り添い、同じ目線に立ち、気持ちをくみ取る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約時に限らず、ご家族様が不安に思っていることや要望をいつでも気軽に相談できるように、職員の声かけなどにより良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご利用者様やご家族様の思いや現状を細かく確認したうえで必要としているサービスを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様と安らぎのある生活を共に送る家族として、また大先輩としての敬意を持ち互いに支えあう事が出来る関係を築けるように努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時や相談時に於いて、ご家族様の協力があってこそ本陣の安心した生活が成り立つ事を丁寧にお伝えし、ご家族様と職員で共にご利用者様を支えていけるよう良好な関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の人間関係や地域の方との関係を把握し、お茶飲み仲間の方との交流が継続できるよう、支援に努めている。	知人、親戚、友人の訪問があり、馴染みの関係が継続できている。近くの喫茶店に出かけ、馴染みの人に会うことが多い。また、食材や日用品の買い物で、行きつけの店へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の間で、利用者同士の相性や生活について意見を交流し合い、職員が上手く間に入るなど、利用者同士が気持ちよく過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できるように窓口を設けてある。また他のサービスを受けようと要望される時には情報提供して、今後の生活の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様ご本人に、どう過ごされたいか思いをお聞きし、食事時間を調整したり、お散歩に出かけたりと支援をしている。困難な場合は、ご本人の様子から思いをくみ取れるよう、出来るだけ配慮している。	本人・家族から、趣味や嗜好を聴いている。また、表情や態度からも思いの把握に努めている。個々の意向や要望に応じ、その人らしい暮らし方や過ごし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入所前の生活の様子や環境など、家族、前任ケアマネにお話を聞き、把握できるよう努力している。また利用者本人からも、普段の会話の中で情報収集し、今度のサービスにつなげる事が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のご利用者様の様子や職員の気付きを記録し職員間で情報の共有をして現状の把握に努めている。情報共有シートの活用をし、ユニット会議で介助方法の確認に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の現状とケアの在り方について洗い出し、それぞれの意見が反映したプランが出来るように努めている。	支援経過を、担当職員を中心に、モニタリングをしている。さらに、本人・家族、専門職の意向を確認をして、介護計画を作成し、状態の変化に応じて、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご利用者様の様子や職員の気付きを、ケース記録に記入し、日々の申し送りにより情報の共有に努めている。また、ケア共有シートに具体的な援助内容を記載し、実践に生かすように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様との外出、買い物、通院などそれぞれに必要な時に、本人、ご家族の状況に合わせて柔軟な支援をします。		

岐阜県 グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関する情報を集め、ご利用者様一人ひとりにあった資源が活用できるよう支援している。また、馴染みの生活が継続できるよう、地域や人との関係継続を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との提携により、往診時や急変時にご利用者様の様子を正確に伝え指示を仰いでいる。また、状態が不安定な場合等、往診時にご家族にも立ち会っていただき、直接主治医のお話を聞いていただきます。	個々に、かかりつけ医があり、継続をしている。協力医の体制を説明し、自由に選択をもらっている。協力医による、毎週の往診と、24時間体制の連携を取っている。専門科医への受診は、家族が対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師にご利用者様の体調の変化や気づきを正確に伝え、相談に応じてもらう事で、ご利用者様が安心して診察や看護をうけられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者様の入院時には、管理者または相談員が病院へ出向き、医師や看護師に現状をお聞きして、退院後の施設での生活が安心して送れるよう情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームが行う看取りに関する方針を説明し、ご利用者様やご家族様にご理解を頂いている。看取りを行う段階において再度説明し理解を頂いたうえで出来る限りの支援をしている。	重度化や終末期の支援について、入居時に方針を説明し、同意を得ている。開設3年目で、看取りの事例もあり、段階に応じて、本人・家族の意向を確認しながら、できる限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃よりご利用者様の急変や事故発生に対し、些細な出来事でもヒヤリハットとして報告をし、意識の向上を図っている。応急手当の方法について、ユニット会議で取り上げ対応ができる様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、職員全員で非常災害時を想定して役割を確認している。また、避難経路や設備の改善箇所の確認を行っている。	年に2回、夜間想定を含めた災害訓練に取り組んでいる。避難誘導、器具の取扱い、通報等を実践している。自家発電装置や食料品、薬等を備蓄している。	地域住民と共に、相互協力体制が築けるように、運営推進会議で検討したり、近隣住民への呼びかけにも期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である利用者の人格を尊重し、職員が目線を合わせ、穏やかな言葉かけを心がけ、気配りが出来るよう努めている。	尊厳やプライバシーの事例を挙げて学び、厳守をしている。日常的な会話や行動は、人生の先輩者を敬う気持ちを大切に、ゆとりのある対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の気持ちを話しやすい、雰囲気づくりに心がけている。また、日常生活の色々な場面で、自己決定出来る様な声かけを心掛けています。起床、就寝時間、お茶の時間の飲み物選択など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に利用者様本位にて過ごして頂いているが、生活のメリハリをつける為、体操やレクリエーションの参加を体調を把握しながら促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の、着替えの準備を利用者様本人にして頂いたり、日常も自分の好みの服を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中から好みの物などを把握して食事が提供できる様努めている。洗濯たみや食器拭きなど、個々の力が発揮できる促しをしている。	自家農園で野菜を収穫し、食べる楽しみにつなげている。食事中は、穏やかな雰囲気、会話を楽しみながら、ゆっくり時間をかけている。後片付け時には、利用者の経験や力が発揮できるように、家事の一役を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、栄養状態が把握できるよう努めている。また、食事の摂取にかかる時間は本人のペースを優先している。食事量は体重管理が必要な方など、主治医に相談しながら調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいをして頂けるよう促している。必要に応じて口腔スポンジなどで介助をさせて頂き、保清に努めている。また、往診で義歯の調整等の対応をしていた。		

岐阜県 グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にはトイレへの声かけをし、オムツの枚数を減らす様に努めています。また、尿意の無い方もトイレ誘導にて排泄を試みている。	排泄チェック表を基に、個々に合ったトイレ誘導をして、排泄の自立を高めている。リハビリパンツから布製の下着とパッドに切り替え、オムツの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り、食事、おやつなど乳製品、寒天等の工夫をし、自然排便を促している。便秘が続けば医師の指導を受けています。また皆さんにラジオ体操やリハビリ体操に参加して頂き適度な運動も進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけの際、必ずご本人の体調や意思を確認して、午前も午後も入浴して頂ける様努めています。ご利用者様一人ひとりに湯を入れ替え、気持ちよく入浴をして頂いています。	基本、週に2回の入浴日がある。個浴をゆったり楽しむ人や介助を受けながら会話を楽しむ利用者もある。体調や希望する時間にそって、気持ちの良い入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣に合わせた時間で起床、昼寝、就寝が出来るように支援しています。不眠、昼夜逆転等有る場合は、日中の活動の工夫をしたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の担当者が中心となり、ケース記録に記入、薬情をファイルにとじ、薬の情報を共有し合い、症状の変化は記録に残して職員が確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみ喜びを普段の生活から把握してその人に合った楽しみ方で気分転換が図れるよう支援していきます。またご利用者様の能力に合わせ食器拭きや掃除など職員が促して参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には散歩に出て、季節感など味わって頂いている。家族様との外出、外食、散歩なども支援している。	日常的に近隣を散歩したり、ベランダでの外気浴にも対応をしている。希望者で、買い物や外食に出かけ、季節の花見、菊人形展、紅葉狩り等の外出は、年間計画を立て、支援をしている。	



岐阜県 グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合いながら、ご利用者様の希望や能力に応じて、買い物するときなどに本人が支払う機会を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様がご家族様に連絡したいと言われるときは、職員がダイヤルし直接お話をしている。ご家族様からの手紙に対し、お返事を書かれることは難しいが、喜んでおられたご様子を、電話や面会時にお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が過ごされるリビングには、ご利用者様と職員の共同制作した作品を飾り、季節感のある空間づくりに努めている。また、お天気の良い日にはテラスで喫茶が出来るよう支援している。	窓越しの風景に、野鳥や花、木が目にとまり、季節の移ろいを感じることができる。広い共用の間に、利用者と職員で作った折り紙作品、梅の花、つぼみ、鶯などが展示してある。季節感のある空間の中で、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の生活の中で、ご利用者様同士の関わりあいなどを把握し、リビングでの食事の席やソファの配置などに配慮して、居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みある物、また思い出のものや写真などを自由に飾って頂き、その人らしい雰囲気の中で過ごせるように工夫している。	居室には、ベッド、布団、整理箱を備えている。馴染みの枕や鏡、テレビ・家族の写真等を持ち込み、好みに配置をし、安心して過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に施設内はバリアフリーであり、ご利用者様の身体機能に合わせ、個々にあった車いすやシルバーカーの選択をすることで、安全な生活が送れるよう支援している。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	21922100184		
法人名	(株)三城ケアサービス		
事業所名	グループホーム ダンデライオン(東ユニット)		
所在地	大垣市赤花町1丁目68番地1		
自己評価作成日	平成25年12月20日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年1月23日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(東ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの良く見える位置に掲示し、スタッフが理念を共有しケアに反映できる様に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会で行われるイキイキサロンに参加させて頂いたり、施設の夏祭りに地域の方が盆踊りをしに来て頂いたり、楽しい時間を過ごす事ができた。今後も継続する努力をしたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議で自治会長様やご家族に向けて、認知症の方々の独自の行動や症状などをテーマにお話する機会を設けている。また、いきいきサロンにて認知症の実態をお話しさせていただくなど情報発信に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の近況や活動内容についての報告を行い、ご家族様との意見交流の場として参加して頂いている。また、意見がケアに反映できるよう、できるだけ質疑応答や意見交流の時間に重点をおいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で地域包括センターの方に参加して戴き、施設の現状報告をお伝えしながら協力関係が築けるように努めている。また、高齢介護課の方にもさまざまな面で相談にのってもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の対象になりうる行為を理解し、ケアに努めている。また、ユニットの扉や玄関を開放し、ご利用者が自由に出入りできる環境でケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、身体拘束以外に、目に見えない言葉の虐待についても職員全員で考え、虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここ1年は職員が権利擁護に関して学ぶ機会が確保されいないため、今後は勉強会のテーマとして取り上げたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問合せ、見学には十分時間をかけ説明、契約時にはじっくり時間をかけ施設の様子、サービス内容、利用料金について詳しく説明し、理解、納得して頂けるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様ご家族様には二ヶ月に一度の運営推進会議に参加頂きしつぎおうとうや意見交流の時間を設け、それらをケアや運営に反映させる努力をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者が職員に声かけして意見を聞き、職員みんなで作り上げる施設になるように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は適度に施設に出向き、雑談ベースではあるが個々の職員の勤務状況や思いを聞き取り、いつでも相談でき、対応できる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加できる機会を確保し、職員の意見をきいて希望に合った研修に参加できる様に心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度行われるグルマネ・タキマネ、しゃべり場に参加する事で意見交流や情報交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様には一日でも早く施設の生活に慣れて頂き安心安全な生活が送れるよう、職員が寄り添い、同じ目線に立ち、気持ちをくみ取る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約時に限らず、ご家族様が不安に思っていることや要望をいつでも気軽に相談できるよう、職員の声かけなどにより良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、ご利用者様やご家族様の思いや現状を細かく確認したうえで必要としているサービスを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様と安らぎのある生活を共に送る家族として、また大先輩としての敬意を持ち互いに支えあう事が出来る関係を築けるように努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時や相談時に於いて、ご家族様の協力があつてこそ本陣の安心した生活が成り立つ事を丁寧にお伝えし、ご家族様と職員で共にご利用者様を支えていけるよう良好な関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の人間関係や地域の方との関係を把握し、お茶飲み仲間の方との交流が継続できるよう、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の間で、利用者同士の相性や生活について意見を交流し合い、職員が上手く間に入るなど、利用者同士が気持ちよく過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できるように窓口をもうけてある。また他のサービスを受けようと要望される時には情報提供して、今後の生活の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や希望をお聞きし、起床時間、食事時間を調節したり、お散歩に出かけるなど、出来る限り意向に沿った支援が出来る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設入所前の生活の様子や環境など、家族、前任ケアマネにお話を聞き、把握できるよう努力している。また利用者本人からも、普段の会話の中で情報収集し、今度のサービスにつなげる事が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のご利用者様の様子や職員の気づきを記録し職員間で情報の共有をして現状の把握に努めている。情報共有シートの活用をし、ユニット会議で介助方法の確認に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の現状とケアの在り方について洗い出し、それぞれの意見が反映したプランが出来るように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご利用者様の様子や職員の気づきを、ケース記録に記入し、日々の申し送りにより情報の共有に努めている。また、ケア共有シートに具体的な援助内容を記載し、実践に生かすように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様との外出、買い物、通院などそれぞれに必要な時に、本人、ご家族の状況に合わせて柔軟な支援をします。		

岐阜県 グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関する情報を集め、ご利用者様一人ひとりにあった資源が活用できるよう支援している。また、馴染みの生活が継続できるよう、地域や人との関係継続を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との提携により、往診時や急変時にご利用者様の様子を正確に伝え指示を仰いでいる。また、状態が不安定な場合等、往診時にご家族にも立ち会っていただき、直接主治医のお話を聞いていただきます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師にご利用者様の体調の変化や気づきを正確に伝え、相談に応じてもらう事で、ご利用者様が安心して診察や看護をうけられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者様の入院時には、管理者または相談員が病院へ出向き、医師や看護師に現状をお聞きして、退院後の施設での生活が安心して送れるよう情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームが行う看取りに関する方針を説明し、ご利用者様やご家族様にご理解を頂いている。看取りを行う段階において再度説明し理解を頂いたうえで出来る限りの支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃よりご利用者様の急変や事故発生に対し、些細な出来事でもヒヤリハットとして報告をし、意識の向上を図っている。応急手当の方法について、ユニット会議で取り上げ対応ができる様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、職員全員で非常災害時を想定して役割を確認している。また、避難経路や設備の改善箇所の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である利用者の人格を尊重し、職員が目線を合わせ、穏やかな言葉かけを心がけ、気配りが出来るよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の気持ちを話しやすい、雰囲気づくりに心がけている。また、日常生活の色々な場面で、自己決定出来る様な声かけを心掛けています。起床、就寝時間、お茶の時間の飲み物選択など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に利用者様本位にて過ごして頂いているが、生活のメリハリをつける為、体操やレクリエーションの参加を体調を把握しながら促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の、着替えの準備を利用者様本人にして頂いたり、日常も自分の好みの服を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中から好みの物などを把握して食事が提供できる様努めている。洗濯たみや食器拭きなど、個々の力が発揮できる促しをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、栄養状態が把握できるよう努めている。また、食事の摂取にかかる時間は本人のペースを優先している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいをして頂けるよう促している。必要に応じて口腔スポンジなどで介助をさせて頂き、保清に努めている。また、往診で義歯の調整等の対応をしていた。		



岐阜県 グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的 にトイレへの声かけをし、オムツの枚数を減 らす様に努めています。また、尿意の無い方 もトイレ誘導にて排泄を試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物 の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ た予防に取り組んでいる	出来る限り、食事、おやつなど乳製品、寒天 等の工夫をし、自然排便を促している。便秘 が続けば医師の指導をうけています。また皆 さんにラジオ体操やリハビリ体操に参加して 頂き適度な運動も進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入 浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時 間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援 をしている	入浴の声かけの際、必ずご本人の体調や意 思を確認して、午前も午後も入浴して頂ける 様努めています。ご利用者様一人ひとりに湯 を入れ替え、気持ちよく入浴をして頂いてま す。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に 応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠 れるよう支援している	利用者様の生活習慣に合わせた時間で起 床、昼寝、就寝が出来るように支援していま す。不眠、昼夜逆転等がある場合は、日中 の活動の工夫をしたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作 用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の担当者が中心となり、ケース記録 に記入、薬情をファイルにとじ、薬の情報を 共有し合い、症状の変化は記録に残して職 員が確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援 をしている	一人一人の楽しみ喜びを普段の生活から把 握してその人に合った楽しみ方で気分転換 が図れるよう支援していきます。またご利用 者様の能力に合わせ食器拭きや掃除など職 員が促して参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に 出かけられるよう支援に努めている。又、普 段は行けないような場所でも、本人の希望を 把握し、家族や地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している	お天気の良い日には散歩に出て、季節感な ど味わって頂いている。家族様との外出、外 食、散歩なども支援している。		

岐阜県 グループホーム ダンデ・ライオン

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合いながら、ご利用者様の希望や能力に応じて、買い物するときなどに本人が支払う機会を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様がご家族様に連絡したいと言われるときは、職員がダイヤルし直接お話をさせて頂いている。ご家族様からの手紙に対し、お返事を書かれることは難しいが、喜んでおられたご様子を、電話や面会時にお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が過ごされるリビングには、ご利用者様と職員の共同制作した作品を飾り、季節感のある空間づくりに努めている。また、お天気の良い日にはテラスで喫茶が出来るよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の生活の中で、ご利用者様同士の関わりあいなどを把握し、リビングでの食事の席やソファの配置などに配慮して、居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みある物、また思い出のものや写真などを自由に飾って頂き、その人らしい雰囲気の中で過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に施設内はバリアフリーであり、ご利用者様の身体機能に合わせ、個々にあった車いすやシルバーカーの選択をすることで、安全な生活が送れるよう支援している。		